

れきしみち

2023.4
No.128



P2
特集
企画展 安城の今昔4
はかり
暮らしのなかのはかる道具

P4... 連載 大河ドラマ「どうする家康」にむけて
「安城譜代調査速報-酒井雅楽頭家-」調査報告

P6... 連載「安城歴史散策
風を感じて歴史を歩く14」

P7... 連載「城址公園 万葉花ごよみ その四-馬酔木-」
第12回松平シンポジウム報告

P8... 安祥文化のさと会員の案内
市民ギャラリーよりお知らせ

- 1.一斗拵 2.たたま尺 3.麴壳(「七十一番職人歌合」より) 4.白布壳(「七十一番職人歌合」より)
5.薫物壳(「七十一番職人歌合」より) 6.間縄 7.化学用天秤 8.掛時計 9.上皿秤



令和5年度

安祥文化のさと会員 大募集!

「さと会員」は、安祥文化のさとを楽しむための
“ファンクラブ”のようなものです。
展覧会をお得に何度も観たい。どんな催しがあのか知りたい。
歴史やアートをもっと身近に感じたい。などなど…
「さと会員」になって、安祥文化のさとをまるごと楽しんでみませんか。

さと会員の
特典はスゴイ!



特典

- 1 安祥文化のさと(歴史博物館、市民ギャラリー、埋蔵文化財センターなど)の最新情報をお届け!
- 2 歴史博物館の有料展示観覧料が2割引!
- 3 歴史博物館の常設展観覧料が年間通じて無料!
- 4 ぶらす珈琲店のお食事・ドリンク500円割引!
- 5 会員限定「さとスタンプラリー」にチャレンジ
スタンプ数に応じた景品をプレゼント!

入会について
会費:500円

[入会受付] 令和5年4月1日(土)~
[支払方法] 歴史博物館受付かお振込みの2通り。詳細はお問合せください。

安城市民ギャラリーよりお知らせ



農家ではたらくクルマ写真&写真作品展

農家ではたらくクルマ写真大会&写真撮影会の作品を展示します。(写生大会&写真撮影会は4月8日(土)に行います。)

- [開催期間] 令和5年4月15日(土)~4月23日(日)
- [休館日] 月曜日
- [時間] 9:00~17:00(最終日は16:00まで)
- [会場] 市民ギャラリー展示室 D・E
- [観覧料] 観覧無料



市民ギャラリー企画展 「安美展第80回記念展」

安美展がたくさんの作家や鑑賞者に支えられて80回目を迎えられることを記念し、令和5年度市民ギャラリー最初の企画展は「安美展第80回記念展」とし、第61回から79回までのグリーンリボン賞受賞者、現在もグリーンリボン賞受賞作家として安美展に出品を続けている作家、そして第61回安美展から制定された特別賞受賞者の作品を展示します。

- [開催期間] 令和5年6月24日(土)~7月8日(土)
- [休館日] 月曜日
- [時間] 9:00~17:00(入館は16:30まで、最終日の観覧は16:00まで)
- [会場] 市民ギャラリー展示室 D・E
- [観覧料] 観覧無料

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

[全館共通事項]

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00~17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00~17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00~17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00~21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください



安城市歴史博物館 URL / <https://ansyobunka.jp/>

はかり

暮らしのなかのはかる道具



ます

令和5年

4/8 → 6/25

観覧無料

私たちの日常は「はかる」道具であふれています。何も「はかる」ことなく、私たちが一日を過ごすことは難しいことではないでしょうか。

本展では、ものさし、枡や秤に加えて、時計や温度計などのいろいろなはかる道具について、暮らしに照らしながら紹介します。



こぶのり 麴売(「七十一番職人歌合」より)

計る?

【第一章】長さをはかる

長さは面積や体積を求める基準となるものです。長さをはかる道具として、江戸時代には曲尺を基準としました。その一方で、関西以西を中心に服飾用のものさしとして鯨尺が普及しました。鯨尺の一尺は曲尺一尺二寸五分に相当するように、この時期には地域色も絡みながら、さまざまなものさし・尺度が使われていました。



しらぬのり 白布売(「七十一番職人歌合」より)

測る!?

赤い印が付けられています。一方、柿碯町の方が使用していた、たたみ尺(写真2)には、センチメートルと尺のほか、明治四十二年以降に使用が認められたインチが記されています。



写真2 たたみ尺

衡の検定によって、規格の統一が図られました。これ以降、検定に合格した枡には「新器検」(写真3)などの焼印が押された一方、規格外の枡は没収や底板を抜くなどのほか、不合格品とわかる焼印を押して返したと伝わります。二本木新町の方から寄贈いただいた穀用方形の一斗枡(写真4)には、側面や底板内側に「麿」の焼印が残っており、適切な検査が実施された証拠となる資料といえます。



写真3 穀用方形一斗枡(明治22年)に残る検定証印

明治七年(一八七四)、一尺は三分の一〇メートル(約三〇・三センチメートル)に相当するものとされ、翌年の度量衡取締条例で確定されました。またこの頃、携帯に便利な西洋式のたたみ尺や巻尺などが登場しました。明治二十年前後に榎前村(現榎前町)の地押(検地)のために使用されたとみられる間縄(写真1)には、メートルではなく、一間(約一・八メートル)に対応した



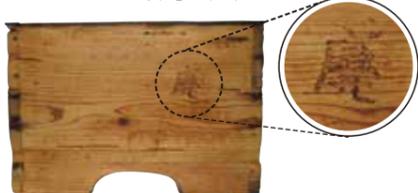
写真1 間縄

【第二章】容量をはかる

米などの穀物、酒などの液体をはかる枡は、年貢米を納める時や日常の取り引きの場面で使用された大切な道具です。豊臣秀吉による太閤検地では基準枡(京枡)が用いられ、江戸時代には江戸と京の枡座によって枡の生産と販売が厳しく統制されました。しかし実際は、さまざまな枡の規格が残っていました。



写真4 穀用方形一斗枡(明治初期)と「麿」の焼印



【第三章】重さをはかる

重さをはかる道具には、桿の中央を支点とする天秤、桿一本と錘一個の釣りと合いをみる桿秤があります。天秤は精密な計量を行うことができ、複数の分銅が必要となり持ち運びに適していません。



写真5 化学用天秤

そのため、江戸時代に天秤の使用は両替屋に限られ、一般的には桿秤が普及しました。

明治二十四年公布の度量衡法において、一貫は四分の一五キログラム(三・七五キログラム)と定義されました。明治期には西洋の秤が導入され、精度がめざましく向上していきます。風や温度の影響を防ぐため、ガラス箱で計量部分が覆われた化学用天秤(写真5)はその典型です。

【第四章】いろいろなものさしをはかる

ものさしや秤など度量衡の道具のほかにも、さまざまなはかる道具があります。現在の私たちが毎日のように使うはかる道具といえば、体温計ではないでしょうか。大正十年(一九二一)以降に国産化に成功した水銀式体温計は、昭和五十八年(一九八三)に誕生した電子式体温計に取って代わられるまで広く普及していました。昭和三十年代以降の「広報あんじょう」をみると、愛知県や安城市によって体温計や体重計などの家庭用計量器の無料検査が定期的に行われたことがわかります(写真6)。市内御幸本町にあるハマイカリ山口旭



写真6 家庭用計量器無料検査の様子(昭和48年)(安城市役所蔵)



写真7 体温計検査器

薬局旧蔵資料には、体温計検査器(写真7)があります。こうした資料からはかる道具の正確さをはかるための道具もあつたことがわかります。

最後に、二つはかる道具について質問します。写真8は振り子式のはかる道具で、三日月状の目盛りを読みます。この道具ではかるものの単位はデニールであり、現在の暮らしでもこの単位を目にすることがあるかもしれません。



写真8 デニール秤(検位衡)



写真9 計算器(昭和22年)

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

これらは何を「はかる」道具?



量る!!

たきものり 薫物売(「七十一番職人歌合」より)

記念講演会や各種イベントはもちろんのこと、展示室内で実際にはかる道具に触れ、体験することもできます。はかる道具から昔の暮らしの一端に触れ、私たちの暮らしに照らし、今を考える機会になれば幸いです。

文責：西島庸介

安城譜代調査速報 — 酒井雅楽頭家 —

うたのかみけ



酒井雅楽頭家が城主となった姫路城(兵庫県姫路市)

雅楽頭家とは

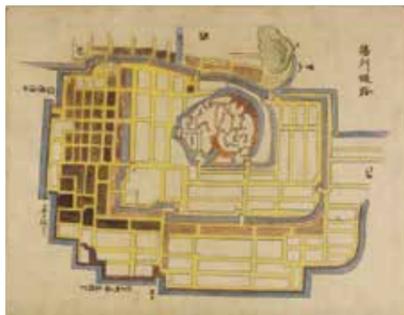
酒井氏の系譜類には、初代を広親としています。広親は松平氏初代親氏の子、あるいは親氏の妻の姉妹の子とし、早くから松平に仕えたとされています。

雅楽頭家の系図では、この初代広親は与四郎を名乗り、家忠―信親―家次―清秀―政家(正親)―重忠と続き、代々与四郎を名乗っています。重忠の弟忠利の方は与七郎を名乗っています。

しかし、雅楽頭家に伝わる系図には、左衛門尉家との関係を示すものではなく、左衛門尉家の系図には雅楽頭の初代家忠を政親としています。

資料上酒井氏の確認ができるのは、「松平一門・家臣奉加帳写」にみえる「大はま 酒井与四郎母」や「酒井弥六」「酒井与一郎」などの名前から、松平信忠の代には松平に仕えていたと考えられます。また天文二十二年(一五五三)の

酒井与七郎清秀の書状が確認できず。政家以前は系譜類で確認するしかなく、また、前に挙げた家系とは違う系譜も存在しています。



播磨姫路(本館蔵「主図合結記」所収)

展示では、酒井氏の三河時代の事績、家康のもとでの活躍、江戸時代初期の幕府内での役割や藩政を取り上げる予定です。調査ではこれに関わる資料を確認し、必要な資料を撮影します。これだけで終わりではなく、博物館に戻ってから展示構成を考慮して資料を改めて選択し、また文書資料は画像で解読を行うなど多くの時間を費やします。今回取り上げた調査先の姫路市立城郭研究室、小浜市酒井家文庫にはすでに資料目録が作成されているので、資料確認は目録から始めることができ、時間短縮ができました。

姫路市立城郭研究室 酒井家文書調査

姫路藩の雅楽頭家は政家―重忠―忠世―忠清の系統で、江戸幕府の老中や大老を輩出した家です。政家・重忠は三河西尾城主で、天正十八年(一五九〇)徳川家康の関東移封に伴い、重忠は武蔵川越(埼玉県川越市)に一万石を領し、慶長六年(一六〇一)に三万三〇〇〇石で上野厩橋(群馬県前橋市)に移封しました。次の忠清の代には一五万石まで所領を増やします。寛延二年(一七四九)、忠恭の時に播磨姫路に転封し、幕末維新まで同地を領しました。

さて、姫路市立城郭研究室は城内図書館二階にあり、そこにある酒井家文書は自治体史編さん事

令和五年度、安城市歴史博物館では、新たな展示テーマ、三河の戦国・織豊期を対象とした「安城譜代」を設定し、シリーズ化していくことになりました。その第一回目として七月に特別展「徳川の支柱酒井氏」を開催いたします。現在、展示開催に向けて酒井氏に関する資料の調査を進めています。前回は酒井氏のうち、酒井忠次に代表される左衛門尉家の調査を報告しましたが、ここでは、雅楽頭家に関する資料を所蔵している機関の調査を報告します。

業時に収集されたもので約七〇〇〇点に及ぶ文書資料群です。今回の調査ではこのうち、約一〇〇点の資料を調査しました。本資料群の中で著名なものとして「姫陽秘鑑」が挙げられます。本編



雅楽頭系図の部分
(姫路市立城郭研究室蔵「姫陽秘鑑」所収)

五七冊・附編二冊の計五九冊に及ぶもので、前半の一九冊が雅楽頭家の系譜類にあてられ、同家の歴史が詳細に編纂されています。加えて、後半の「臣職」二冊には姫路藩士の先祖書などがあります。「姫陽秘鑑」は江戸時代末以降に成立したものです。が、考察部分を含め、豊富な情報を見ることができ

ます。それ以外にも「酒井忠世家譜」「酒井忠清家譜」、旗本家の「酒井半三郎系図」がありました。また、三河の先祖調査の記録として「三州幡豆郡酒井村与次郎由緒書」や、「内藤半左衛門由緒書」など個別の三河以来の家臣の書上があり、三河時代の雅楽頭家の歴史を伝える資料が残っています。

福井県小浜市 酒井家文庫調査

雅楽頭系のもう一つの家は、政家―忠利―忠勝の系統です。忠利は兄重忠とともに家康に仕え、別家を立てています。駿河田中(静岡県藤枝市)で一

万石の大名となり、後に兄重忠も領した武蔵川越に移封しました。忠利の子忠勝も父とは別に知行を得て、後に家光付きとなり、寛永四年(一六二七)に父忠利の遺領を継ぐなどして寛永十二年、二万余石で若狭小浜(福井県小浜市)に移封しました。幕末維新まで一四代約二四〇



忠勝が入城した小浜城跡(福井県小浜市)

年の間同地を領しました。忠利は兄重忠とは一〇歳年下の永禄二年(一五五九)生まれとされます。忠利の母の妙玄尼は石川数正の姉、あるいは叔母とされます。石川数正は石川忠成(清兼)の孫とされる人物です。忠成は本證寺門徒の惣領であり、家康の父広忠の代より文書史料に出てくる人物で、忠成の妻は家康の母である於大の方の姉の妙春尼です。妙春尼と妙玄尼との間に血縁関係があったかは不明ですが、忠利は家康の伯母の孫にあたるので遠縁になります。

兄重忠の母は、江戸時代成立の由緒や記録類によると、この妙玄尼であったか、あるいは他の人物か、両方の説が残っていますが、おそらく他の女性が母であったかと考えられています。これに関連する資料として姫路市立城郭研究室酒井家文書には「文政三年 小浜公ヨリ問合セ妙玄尼公之事蹟」があり、姫路藩が妙玄尼について関心があったことを物

語っています。

この小浜藩に関わる資料群が小浜市酒井家文庫として公開されています。約二万六〇〇〇点の書籍、文書史料で構成されていて、良質な資料群です。このうち、約一八〇点の資料を調査しました。藩主家の系譜や事績の諸書は明治期までの間に数種類編纂されていて、「酒井家御代記」「御事跡類説集考」の三河時代から江戸時代初期にかけての部分の調査・撮影しました。また、「明暦元年四月 朝鮮国書翰」「寛永十一年 江戸幕府老中連署奉書」など藩祖の忠勝は三代將軍家光のもとで老中の責務を担っていたことがわかる資料があります。また、「安永三年 小浜御家中由緒書」「御先代分限帳・忠直ノ分限帳」など小浜藩士の先祖が記録されている資料も残されています。

この他に、福井県立若狭歴史博物館に保管されている忠利・忠勝所用の甲冑について、今後調査する予定です。

雅楽頭家、左衛門尉家両家とも出身のこの三河の地に足跡を多く残しています。これらの調査も引き続き行い、展示に反映したいと思えます。

